

早稲田大学 スポーツ科学研究科
修士課程 入試問題の訂正内容

<一般入試 修士課程2年制>

【専門科目】

●問題冊子6ページ :C-17 問題文2行目

(誤)

～循環器系の(心臓や血管)について…

(正)

～循環器系の(心臓や血管)の適応について…

以上

2024年度 修士課程入学試験（春期）

試験問題〔専門〕

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

問題A-1～E-9の中から志望研究指導の問題について解答しなさい。

志望研究指導以外の問題を選択した場合や2問以上解答した場合は採点されません。

問題記号	研究領域	ページ
A-1～7	スポーツ文化研究領域	P. 1～2
B-1～8	スポーツビジネス研究領域	P. 3
C-1～18	スポーツ医科学研究領域	P. 4～6
D-1～6	身体運動科学研究領域	P. 7～8
E-1～9	コーチング科学研究領域	P. 9～10

A. スポーツ文化研究領域

A-1 研究指導名：スポーツ史（石井 昌幸）

イギリスのスポーツ史家トニー・コリンズは、1920年頃から1940年頃までを「スポーツの2度目の産業革命」の時代と呼んでいる。この「スポーツの2度目の産業革命」とは、どのような事象か、具体的に説明しなさい。

A-2 研究指導名：舞踊論（杉山 千鶴）

舞踊・ダンスの諸ジャンルの中から一つを選び、①技法・様式、②教授法、③伝承の3つについて、それぞれ特性を述べよ。

A-3 研究指導名：体育科教育学（吉永 武史）

よい体育授業を実践するための授業づくりのポイントを、①教材ならびに②教師行動の観点から具体的に述べよ。

A-4 研究指導名：スポーツ教授学（深見 英一郎）

下の表はスポーツ庁が平成29年7月に全国の公立中学校416校、公立高等学校279校、私立学校129校に通学する各学年の1学級（40名程度、スポーツ特化学級を除く）の生徒を対象に「運動部活動に対する意識」を把握するために行った調査結果の一部である。

【質問】あなたは、どのような条件であれば、運動・スポーツを行いたいですか。

※学校の運動部・地域のスポーツクラブともに所属していない人が回答

(n/%)	中学校						高等学校					
	全体 n9,301	公立 n8,250	私立 n1,051	全体 n17,774	公立 n12,744	私立 n5,030						
1.同じ競技レベルの人だけで活動できる	1,931	1,746	185	2,568	1,861	707						
2.勝ち負けにこだわらない	2,095	1,924	171	2,957	2,229	728						
3.生徒同士で活動計画を決められる	911	838	73	1,377	969	408						
4.活動時間が程良い	2,914	2,612	302	5,451	3,963	1,488						
5.指導がやさしく丁寧	2,408	2,192	216	2,987	2,154	833						
6.友達と楽しめる	4,231	3,857	374	7,770	5,687	2,083						
7.どのような条件でも運動・スポーツは行いたくない	1,589	1,364	225	2,343	1,658	685						
無回答・無効回答者数	1,353	1,229	124	2,444	1,698	746						

【出典】「平成29年度 運動部活動等に関する実態調査 報告書」スポーツ庁 平成30年3

月

あなたはある中学校の運動部活動主任を担当していると仮定する。現在、全国の多くの公立中学校では少子化による生徒数減少の影響を受け、部員が集まらないことにより大会への出場だけでなく日頃の練習すらままならない状況が見られるようになっており、あなたの中学校でも同様の傾向が見られる。勤務する中学校の校長から、事態改善に向けた運動部活動の改革案を求められている。この結果を受けて、あなたは生徒の多様なニーズに合った活動機会を充実させるために、中学校全体の運動部活動の実施方針に関わり、どのような実施ルールを導入するか。3点挙げて具体的に解説しなさい。

A-5 研究指導名：スポーツ社会学（中澤 篤史）

「身体のあり方のすべてを、遺伝が決定する」という命題を、社会学の立場から反証しなさい。

A-6 研究指導名：スポーツ文化論（川島 浩平）

早稲田大学には長年かけて培われたスポーツ文化がある、といわれる。「文化」とはなにかを定義したうえで、早稲田大学のスポーツ文化についてあなたが知るところを述べなさい。

A-7 研究指導名：アジアのスポーツと身体文化（高嶋 航）

1945年以前の日本スポーツ界の国際交流について知るところを述べよ。ただし、オリンピックは除く。

B. スポーツビジネス研究領域

B-1 研究指導名：スポーツ経営学（木村 和彦）

日本サッカー協会は、J1 浦和レッズのリザーブのサポーターの天皇杯試合（2023 年 8 月）における暴徒化問題を受けて、一部のサポーターの無期限入場禁止やチームの天皇杯参加資格はく奪などの処分を下した。この問題について、スポーツ経営学の視点から論じなさい。

B-2 研究指導名：健康スポーツ論（中村 好男）

「肥満エpidemick」について論ぜよ。

B-3 研究指導名：トップスポーツビジネス論（平田 竹男）

一つのスポーツを選び、そのスポーツの発展や衰退を逆台形モデルを用いて論ぜよ。

B-4 研究指導名：スポーツ組織論（作野 誠一）

運動部活動の地域移行において地域スポーツクラブはどのような役割を果たしうるか。具体的な提案を含めて論述せよ。

B-5 研究指導名：スポーツビジネス・アドミニストレーション（武藤 泰明）

スポーツのリーグ戦の会場（スタジアムやアリーナ）で、入場者を対象としてアンケート調査を実施すると「標本バイアス」という現象が起き、的確なデータを収集できないことが知られています。この「標本バイアス」について解説してください。

B-6 研究指導名：スポーツビジネスマーケティング（松岡 宏高）

試合会場での「見るスポーツ」の消費において観客が求めるものは多様である。観客の中には、試合展開や競技内容そのものよりも、試合会場での様々なイベント（試合前・ハーフタイム・攻守交代時など）や飲食などを楽しみにしている者も少なくない。このような観客はスポーツ組織にとって重要であるか否かについて述べよ。さらにその理由を論理的に説明せよ。

B-7 研究指導名：スポーツビジネス法（松本 泰介）

日本のプロ野球における保留制度・FA制度について、その概要と問題点を述べよ。

B-8 研究指導名：スポーツ&エンターテインメントマネジメント（佐藤 晋太郎）

「ウェルビーイング」は様々な側面から科学されてきました。ここでは快樂的、心理的、社会的ウェルビーイングの三つの側面に着目します。スポーツ文脈での例を交えて、それぞれがどのようなウェルビーイングを意味するのか説明してください。

C. スポーツ医科学研究領域

C-1 研究指導名：運動免疫学（赤間 高雄）

まず、免疫と防衛体力との関係を説明し、つぎに、コンディショニングと防衛体力との関係を説明しなさい。

C-2 研究指導名：運動器スポーツ医学（鳥居 俊）

私たちの身体の成長について、成長速度曲線やスキャモンの発育曲線が広く知られている。これらの表す意味や活用についてあなたの考えを記しなさい。

C-3 研究指導名：健康行動科学（岡 浩一朗）

2020年に公表された世界保健機関（WHO）による「身体活動・座位行動指針」について、重要だと考えられるポイントについて、知るところを述べよ。

C-4 研究指導名：スポーツ整形外科学（金岡 恒治）

成長期の腰部スポーツ障害に腰椎分離症がある。腰椎分離症の病態を解説し、その対処方法について、生体力学的知見と社会医学的見地から知るところを述べよ。

C-5 研究指導名：予防医学（鈴木 克彦）

運動による酸化ストレスに関して、その特徴、機序および対策について知るところを述べよ。

C-6 研究指導名：アスレティックトレーニング（広瀬 統一）

慢性足関節不安定症（Chronic Ankle Instability ; CAI）について説明し、その評価方法および改善のためのリコンディショニングプログラムについて簡潔に述べよ。

C-7 研究指導名：筋生物学（秋本 崇之）

ヒト骨格筋におけるミトコンドリアの役割について述べよ。

C-8 研究指導名：運動代謝学（宮下 政司）

たんぱく質の摂取の重要性について、身体活動の実践と併せ、知るところを述べよ。

C-9 研究指導名：運動器スポーツ機能解剖学（熊井 司）

中年のテニス愛好家が、練習量の増加とともにバックハンドストローク時の肘外側痛を訴えて競技を休止せざるを得ない状態となった。病院を受診しX線検査で骨形態の破綻など外傷性変化は認められないことが確認されている。この選手に起こっている障害について、どのような病態が考えられるか。また、どういった治療が勧められるか。
以下の10個のキーワードの中から8個以上用いて考えを述べよ。

キーワード：オーバーユース、エンターシス、橈側手根伸筋、微小損傷、Thomsenテスト、筋緊張、エルボーバンド、超音波画像、運動療法、体外衝撃波治療

C-10 研究指導名：健康教育学（石井 香織）

子どもの身体活動不足を解消するための具体的方策について、健康教育学の理論を援用し提案せよ。

C-11 研究指導名：スポーツ神経精神医科学（西多 昌規）

設問A、Bに解答してください。

- A. ヒトにおける生体リズムの調節機構を、解剖学部位や神経科学、内分泌学などの知見を交えて、説明してください。
- B. ヒトの睡眠と生体リズムを評価・計測する方法や手段について、主観的なものと客観的なものとに分けて、知るところを説明してください。

C-12 研究指導名：スポーツ疫学（澤田 亨）

「症例対照研究」とはどのような研究か説明せよ。

C-13 研究指導名：アスレティックパフォーマンス（平山 邦明）

最大等尺性筋力もしくは1回最大挙上重量が高くても、必ずしも敏捷性や跳躍力など、いわゆる爆発的パワーが高いとは限らない。その理由を記せ。

C-14 研究指導名：環境運動生理学（細川 由梨）

(1) 人の暑熱ストレス耐性を高める方法の例を1つ挙げよ。

(2) (1) で挙げた方法のメカニズムについて以下のキーワードを用いて説明せよ。

キーワード：熱収支・深部体温・心拍数・主観的疲労度

C-15 研究指導名：スポーツ生化学・遺伝学（谷澤 薫平）

遺伝率 (heritability) とは何かを説明した上で、体力・運動能力の遺伝率について知るところを述べよ。

C-16 研究指導名：スポーツ生理学（前田 清司）

動脈壁の硬化と年齢の関係について説明し、運動習慣が動脈壁の硬化度に及ぼす影響を述べなさい。

C-17 研究指導名：応用生理学（宮地 元彦）

数ヶ月にわたる有酸素性運動トレーニングによって引き起こされる循環器系（心臓や血管）について知るところを述べよ。

C-18 研究指導名：スポーツ傷害・怪我・予防学（杉本 大輔）

Please pick one of the sports you like and discuss methods to prevent athletes from musculoskeletal injuries.

D. 身体運動科学研究領域

D-1 研究指導名：生体ダイナミクス（川上 泰雄）

人間の身体を構成する骨格筋の形態的特性と機能的特性について、知るところを述べなさい。

D-2 研究指導名：スポーツ心理学（正木 宏明）

クローズドスキル遂行時の目標物に対する注視行動（例えば、バスケットボールのフリースロー時のリングに対する凝視）とパフォーマンスとの関係について説明せよ。

D-3 研究指導名：統合運動神経生理学（宝田 雄大）

以下の2問のいずれかを選択し、その設問に解答しなさい。

A ヒトの随意筋収縮力決定因子を鑑み、体重を増やすことなく、筋収縮力を向上させるための筋力トレーニングの方法やプログラムについて、あなたの考えを述べよ。

B 本人が見えたと知覚できない、短時間の（内的）報酬と関連付けられた行動目標の呈示でさえ、（輝度・照度一定）瞳は大きく見開き、脳の（運動システム）神経活動は増加する（Takarada & Nozaki, 2017; 2018）。見えていないのに瞳は見開き、高まった脳活動により、人知れず、運動行動に素早さと力強さを付加する！？・あなたならこの奇妙なパラドックス*をどのように解釈しますか。考えるところを述べよ。

*パラドックスとは、正しそうに見える前提と、妥当に見える推論から、受け入れがたい結論が得られる事を指す言葉。相互に矛盾する命題がともに帰結し得ること。

※ページ下部に出典を追記しております。

D-4 研究指導名：バイオメカニクス（矢内 利政）

身体運動は、外力に起因する全身の運動と関節間に作用する内力による身体各部位の回転運動の組み合わせと捉えることができる。多くのスポーツでは、全身あるいは特定の身体部位の回転速度を高めることが競技力の向上に直結する。そこで、あなたが興味を持つスポーツ種目の1つを対象として、①身体の中のどの部分の回転速度を高めることが競技力向上をもたらすかを挙げ、②その部位の回転速度を高めるために用いられる手法（筋力増強や減量等の体力要素を向上させる手法は除外し、技やテクニック等の運動技術的な手法に限定する）を3点挙げよ。また、③これら手法のそれぞれについて、回転速度が増大するメカニズムを力学的な運動原理に基づいて詳しく説明せよ。

D-5 研究指導名：スポーツ栄養学（田口 素子）

身体組成の測定方法のうち、実験室レベルとフィールドレベルの測定方法をそれぞれあげ、特徴や使用時の注意点などについて説明しなさい。

D-6 研究指導名：運動生理学（林 直亨）

ホメオスタシスとは何かについて述べなさい。その後、ホメオスタシスの一例を挙げて、調節メカニズムを説明しなさい。

E. コーチング科学研究領域

E-1 走運動・コーチング科学 (磯 繁雄)

障がい者のスポーツ参加は、「社会への一歩」としてとらえることが多い。では、健常者のスポーツとの違いをスポーツ参加の意義や継続の視点から述べよ。

E-2 トップスポーツコーチング科学 (奥野 景介)

「第3期スポーツ基本計画」(文科省, 2022) に示されている「持続可能な国際競技力の向上」のためには、どのような方策が考えられるか？

上記について、トップレベルのアスリートを対象とした自分の考えを述べなさい。

E-3 スポーツコーチング学 (土屋 純)

運動技術を習得させるためのコーチングに必要な情報にはどのようなものがあるか、知るところを述べよ。

E-4 コーチング心理学 (堀野 博幸)

コーチングにおける「コーチの他者観察」の重要性について、コーチング現場での具体例を示しながら説明してください。

E-5 ボールゲーム戦術戦略論 (倉石 平)

ボールゲームをコーチングする上で、オープンスキル的な指導、クローズドスキル的な指導が存在する。ボールゲームではオープンスキルが重要視されると言われている。その理由は。具体的な事例を挙げて述べなさい。

E-6 トレーニング科学 (岡田 純一)

ある大学野球のコーチは「柔軟性を損ない球速が落ちるから」と投手全員にウエイトトレーニングを行わせないように指示している。投手に対するウエイトトレーニングは必要か。必要な場合は、どのようにトレーニングプログラムを調整し、コーチが懸念する柔軟性の低下を防ぐべきか。ストレングスコーチとしてこのようなコーチへどのように助言するか？ 具体例を挙げながら述べなさい。

E-7 チームスポーツコーチング論 (松井 泰二)

あなたが専門とする競技や種目におけるゲームを構成する技術や戦術について1つ取り上げ、それについて具体的に明示し、説明しなさい。その際に競技名や種目等を明らかにすること。

E-8 武道のコーチング学 (射手矢 岬)

武道における「後の先」について、具体的な例をあげて説明しなさい。

E-9 冬季スポーツコーチング学 (藤田 善也)

スポーツコーチング科学の研究において、考察に含められるべき特徴とは何か、述べよ。

